

講義名	対)中国語資格試験準備A【GSP生用】		
担当教員	小笠原 恵子		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 4時限	授業形態	講義
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要 この科目は、GSPクラスの学生のために開講するものである。 この授業では中国語4級の検定試験の合格を目標としている。 中国語検定試験のランクは年4歳から始まるが、この授業ではワンランク上の4級レベルの文法を学習しながら、検定試験を受けるためのリスニングと筆記のトレーニングを進めていく。

到達目標 中国語検定試験4級に合格する事を目指す。 4技能に関する到達目標 聞く：平易な日常会話の内容を聞いて分かり、ある程度の長文の概要を聞いて理解できるようになる。 話す：自己紹介ができ、短い文の質問と答えができるようになる。 読む：300字以内の平易な内容の中国語を理解することができるようになる。 書く：基本文型を応用して、簡単な作文ができるようになる。 本科目は対面を原則とする科目です。オンデマンドでの受講では、到達目標を達成するのが難しい科目であるため、オンデマンドでは開講しません。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者や、濃厚接触者に指定され一時的に通学が禁止となった学生には、別途個別に対応します。
--

提出課題 毎回の授業では、トレーニングの状況を確認するため、トレーニングのプリントの提出をしてもらい、フィードバックを行う。また、そのほか、ほぼ毎週宿題があり、指定の授業で提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック 提出物の結果を講評し、習得できなかった文法項目などの復習をする。
--

評価の基準 原則として1/3以上提出物を締切日までに提出しなかった場合は失格とします。 期前過ぎの提出は評価の対象となる。 また、欠席が授業回数の1/3以上の場合も失格とする。提出内容が不完全な場合は、評価の減点対象となる。 宿題提出20%、授業中提出物及び授業態度20% 中間考査30% 期末考査30%

履修にあたっての注意・助言他 この授業は中国語検定4級の合格を目指す科目であるため、授業時間外でのリスニングのトレーニングの強化はしなければならない。

教科書 ・教科書を使用しない。					

プリント資料及び参考文献 中国語検定の過去問及び自作プリント教材
--

授業計画 1. 双方向授業 & プリント配布：実力測定 & 検定試験の説明 2. 双方向授業 & プリント配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング 3. 双方向授業 & プリント配布：模擬試験による実力測定・解説 4. 双方向授業 & プリント配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング 5. 双方向授業 & プリント配布：模擬試験による実力測定・解説 6. 双方向授業 & プリント配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング 7. 双方向授業 & プリント配布：模擬試験による実力測定・解説 8. 双方向授業 & プリント配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング 9. 双方向授業 & プリント配布：模擬試験による実力測定・解説 10. 双方向授業：文法項目・筆記、リスニングトレーニング、中間まとめ 11. 双方向授業 & プリント配布：中間考査準備、中間考査は、1-10回目の授業で使わなかった過去問1回分を使った模擬試験になる。実力測定・解説 12. 双方向授業 & プリント配布：中間考査準備、文法項目・筆記、リスニングトレーニング 13. 双方向授業 & プリント配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング 14. 双方向授業 & プリント配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング 15. 双方向授業 & 総まとめ
--

授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/>	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	<input type="radio"/>	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間 中国語検定4級を目指すには、授業外での努力は欠かせないため、毎回の授業の後に筆記の宿題のほか、音声ファイルを聞くことも宿題。音声は授業中に指示する。 毎日の学習時間は1時間以上が必要。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 この科目は2年生から履修可能な外国語関連科目で、中国語の語学力の向上を図るとともに、グローバルの視点から海外の社会や文化をより広く深く学ぶことができます。
--

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述 毎回双方向授業を実施する予定。
--

実務経験の有無及び活用

備考 中国語検定4級試験を受けるのは6月末ですが、その後も継続して中国語検定4級試験過去問を使用し、リスニングと筆記能力を向上する。
--